

ここまでできる！ 摂食・嚥下リハビリテーション

食えること、すなわち栄養摂取は、人間の生命維持において不可欠の行為です。最近になって、経静脈に比べ、経口・経腸で適切な栄養を摂取することが、免疫能や自然治癒力を高めることが実証されつつあります。もとより口から食えることは、患者さんの楽しみや喜びにつながり、QOL を維持・向上するに違いありません。

摂食・嚥下能は、適切な訓練を行なうことによって維持・回復が可能です。一方、その潜在能力を放置すれば、その機能は失われるばかりです。

本特集では、一步踏み込んだ摂食・嚥下支援を行なったいくつかの取り組みを紹介します。患者さんの生命を支える摂食・嚥下リハビリテーションに、あなたも挑戦してみませんか？

球麻痺による重度嚥下障害への看護

患者様の思いに沿った看護アプローチ ● 214 ページ

球麻痺による重度嚥下障害の患者さんを、間欠的口腔食道経管栄養中の看護にて、経口摂取のみの栄養管理まで改善した取り組みについて紹介します。

アルツハイマー病者への継続的なアプローチ

食える機能を維持するための 14 年間の軌跡 ● 220 ページ

アルツハイマー病で機能や能力が少しずつ失われていくなかで、3 食とも経口摂取を継続している事例を通して、14 年という長期にわたる支援について語ります。

NST とのリンケージ

超急性期の脳血管障害患者への戦略的なアプローチ ● 226 ページ

超急性期から廃用性口腔機能低下を予防するための訓練を実施し、摂食への移行を目的に体制整備に取り組んだ例を紹介しします。

PEG (percutaneous endoscopic gastrostomy)

嚥下機能改善が期待できる 1 つの選択 ● 234 ページ

《コラム》PEG 後の摂食・嚥下訓練の留意点について

経皮内視鏡的胃瘻造設術(PEG)は、後に嚥下訓練を行なうことにより食事摂取が可能となるならば、試行する価値のある手段です。その長所や短所を解説します。

[提言] なぜ今「摂食・嚥下障害看護」認定看護師なのか ● 240 ページ

摂食・嚥下障害に苦しむ患者のための専門的知識と技術を習得した、「摂食・嚥下障害看護」認定看護師の活躍が今後も期待されます。その必要性和可能性について提言します。